

新潟市教育委員会 令和5年9月 定例会会議録			
日 時	令和5年9月 25 日(月) 午後3時 30 分		
場 所	新潟市役所 ふるまち庁舎 4階 教育会議室1		
教育長	井 崎 規 之		
出席委員 (8名)	大 宮 一 真	出席委員	畠 山 典 子
	五十嵐 悠 介		石 坂 学
	齋 藤 昭 彦		神 林 む つ み
	乙 川 千 香	欠席委員	
	中津川 英 子		
会議出席 教育委員会 事務局職員 (6名)	職・氏 名		職・氏 名
	教 育 次 長	池 田 浩	
	教 育 次 長	本 間 金 一 郎	
	教育総務課長	渡 辺 和 則	
	学校人事課長	丸 山 明 生	
	学校支援課長	三 條 貴 之	
	教育総務課 課 長 補 佐	相 崎 敦 子	
他部署 出席者(0名)			

開会	時 刻	午後3時 30 分
	宣 言 者	教育長
付議事件 (1件)	議案第 14 号	教職員の人事措置について
報 告 (2件)	令和 5 年度全国学力・学習状況調査の結果について	
	令和5年度新潟市教育委員会表彰被表彰者の選考結果報告について	

第1 開会宣言

○教育長

午後3時 30 分 開会を宣言する。

これより、9月教育委員会定例会を開催いたします。

本日、報道関係者より委員会を撮影及び録音したい旨の申し出がありますが、これを許可することにご異議ありませんか。

(異議なし)

よろしければ、許可することで決定いたします。

会議録署名委員の指名

○教育長

日程第1「会議録署名委員の指名」を行います。新潟市教育委員会会議規則第 11 条により、会議録署名委員に畠山委員及び石坂委員を指名します。

第2 付議事件

○教育長

次に、日程第2「付議事件」に入ります。

議案第 14 号「教職員の人事措置」については、人事案件であることから非公開といたしたいと思いますが、ご意見ございませんでしょうか。

(異議なし)

それでは、公開案件終了後に公開予定として再開し、審議をいたします。

第3 報告

○教育長

次に、日程第3「報告」でございます。

はじめに「全国学力・学習状況調査の結果」について、学校支援課から説明をお願いいたします。

○学校支援課長

学校支援課です。本日お配りしました「令和 5 年度全国学力・学習状況調査概要と結果を受けての取組」と事前に配布しておりました資料と組み合わせながらご説明させていただきます。

まず資料 1 をご覧ください。この調査は 4 月 18 日実施され、8 月定例会でもお示しました。今回は 8 月下旬に公表された英語「話すこと」の結果についてご報告いたします。なお、新潟県の結果及び令和元年度実施の英語「話すこと」調査結果は公表されていないため、空欄となっております。

中学校 3 年で実施された英語「話すこと」調査は全国平均を 3.6 ポイント下回る結果となりました。しかし、今回の調査は全国の正答率が 12.4 ポイントと非常に低く、調査の精度に課題があるとも言えます。そのため、今回の結果が生徒の英語「話すこと」の学力を反映しているとは言いがたいと考えております。また資料 2 ありますように、それぞれの教科の平均正答率の状況は、全国と同様の傾向にありました。その中で全国平均を下回ったり、無答率が高かったりする問題があり、定着に課題がある学習内容が明らかになっています。これらの結果を分析した指導改善の方向については、学校支援課より近日中に各学校にお知らせします。その際には資料の電子配信だけでなく、動画配信も取り入

れ、教職員に分かりやすく伝える工夫をしていきます。また、各校においてもそれぞれの学校の結果、分析をもとに指導改善を図るよう働きかけています。

次に資料 3 になります。児童・生徒質問紙についてです。まず表の見方についてご説明します。数値欄の左が小学校 6 年生、右が中学校 3 年生の回答状況です。黄色の欄が今年度の新潟市の肯定的回答の割合で、数字が赤字で示したものは全国を下回った項目です。また、矢印が付いている項目は、令和 4 年度の新潟市の肯定的評価と比較して 3 ポイント以上差があった項目です。数値が空欄の項目は選択肢に肯定的なものとするものと否定的なものとの区別が明確ではないなど、数字での評価にそぐわない内容です。それらの内容は同じく資料 3 のグラフの質問事項と回答状況でお示ししています。

では、児童生徒質問紙の結果概要です。質問紙調査は日常生活や学校生活に関する内容と、本調査実施の教科に関わる内容で実施されました。今年度は、中学校英語の調査実施や部活動の地域移行を意識した項目など、12 項目が加わりました。

本日配布した資料の 2 の(2)をご覧くださいと思います。ここに政策資料に関わる回答状況を一覧でお示しました。概ね令和 4 年度と同様の結果となりました。一部、質問が変更されていたり、全ての学年の児童生徒を対象にして行っている「新潟市生活・学習意識調査」で本来は評価するために参考数値となっていたりする部分もありますが、教育委員会としての取り組みが一定の成果を上げていると言えます。

全体的な回答の状況については 2 (3)でお示しました。小学校、中学校ともに全国平均を上回った項目は小学校で 57 項目、中学校で 68 項目ありました。その中でも「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する取り組み状況、「総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳」については全国平均を 5 ポイント近く上回りました。また、国語や算数、数学に対する興味関心や授業の理解度等も全国平均を上回るか、同等の結果でした。

学校支援課では、これまで学校訪問で参加した授業をもとに、児童生徒が自分の思いや考えを表現しながら本気で追究する授業づくりについて具体的に指導をしてきました。また、教育ビジョンに基づいた一貫性の高い教育活動が推進されるように指導助言を行ってきました。その結果、各校において教育ビジョンの実現に向け、児童生徒の気持ちに寄り添いながら、授業づくりに努めようとする教職員の姿が見られるようになったと感じています。また、ICT 教育推進市として、児童生徒の学びが豊かになる端末の活用についても、授業をもとに指導をしてきました。その結果、端末の利活用に対する教職員の姿勢が「とりあえず使ってみる」から、「児童生徒の学びをより良くするために使う」へと変容し、学校全体で効果的な利活用のあり方を探る取り組みが生まれてきまし

た。これらの取り組みが全国平均を上回る結果につながったと捉えています。

今回の結果を受け、学校支援課では授業改善につながっていると考えられる学校訪問において、今後も児童生徒の主体的な学びを具現する指導のあり方について、参観した授業をもとに具体的に提案をしていきます。また、ICT を効果的に活用した学びについて、提言や情報提供を続けていきます。その反面、今回の調査では小学校、中学校ともに英語に対する興味関心や、授業の理解度等が全国平均を下回るとともに、家庭学習の取り組みでは小学校と中学校とで差があることが明らかになりました。

そこで、政策指標や教科指導に係る成果や課題に対し、全国学力・学習状況調査の一部の項目について、相関関係を外部機関と連携して分析してまいります。現段階では、児童生徒の教職員や地域社会、友人との関わりの充実度、総合的な学習の時間や学級活動、特別な教科道徳の取り組み状況、家庭学習に対する学校の指導のあり方などとの関連を分析する予定です。また、他自治体への視察や調査等を行い、参考となる取組を収集します。

以上の分析および収集の終了については、令和 5 年末を目途とし、令和 6 年度の取組について、今後の定例会で随時報告いたします。以上です。よろしくお願いいたします。

○教育長

ただいまの説明にご質問やご意見がありましたらよろしくお願いいたします。

○齋藤委員

ありがとうございました。英語の話すことの試験について、これは具体的にどのような内容の試験であったり、評価だったりをされているのですか。

○学校支援課長

状況を設定し、それに対する英語のやり取りとなっていました。道案内だったと記憶しています。私の感触ですと、英語での受け答えもそうなのですが、日本語でもどのような受け答えをすればいいのか、非常に複雑な問題になっているなど感じました。ある大学の教授も、そういった視点から英語に限らず、コミュニケーションの上で非常に複雑な問題であったという捉えであったということです。

○齋藤委員

それを評価するときには、ある単語が含まれているかとか、しっかりとした文章になっているかとか、その辺りは、話したことを聞いて、採点者が評価するという感じなのですか。

○学校支援課長

基本的に録音という形で実際に喋ったものがそのまま評価に行きます。私たちも厳密な評価の仕方等は分かりませんが、今おっしゃったようなところのポイントがあつて評価されていると思います。

○齋藤委員

教育の現場で実際にどういう風に応用するか、英語のコミュニケーション能力っていうのは、日本の教育の中で非常に不足しているところで、書くこと、読むことはまだできるんですけど、聞いて話すっていうところ

が、昔からそうなのですが、非常に不足していると思います。何が大事かという、英語だけで話をする、英語を勉強するのではなくて、英語で勉強するぐらいの気持ちで、英語でコミュニケーションする時間を作るみたいな、そんなことができてくると、話す力はついてくるのかなという印象です。これも大学の中なんかでも本当にそうで。みんななかなか英語でのコミュニケーション能力って足りないんですけど、でもそういう時間を一生懸命作って、自由にディスカッションしたりとか、話をしたりするような時間も作って、とにかく、英語に触れる時間、英語を使う時間っていうのを増やすというのは、その一番近道ではないかなと実感しております。

○教育長

ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

○石坂委員

報告のアンケートの 10 ページがまさに今齋藤委員がおっしゃることかなというふうに思っています。資料 3、報告 10 ページ、アンケート結果の 59 番「英語は好きですか」60 番「英語の勉強は大事ですか」61 番「英語の内容が分かりますか」63 番「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり、職業についたりしたいですか」、64 番も同じように「機会」ですね。こういうことだと思うんです。

現場の学校ってこういう機会っていうのはどうだったんでしょうか。振り返って見られた時に十分だったのかどうかっていう判定はこれから出てくるとは思うんですけども、手応えとして、こういう機会っていうのを大事にされてきたのかどうかというところは、どんな感じなのでしょう。

○学校支援課長

私が授業の中で見ている限りだと ICT の活用によって、タブレットを使って子どもたちがプレゼンを作って発表してというやり取りはあります。ただ、やはり生活の中で、英語にしてコミュニケーションをとる、という場面はまだまだ足りないという感触はあります。英語の指導主事が、分析するためにどういったところから現状を捉えて、授業改善を図ろうかというところで、細かいところはまだ言えないですけども、実際の授業では、コミュニケーションというところまではいってなかったかなという反省はあります。

○石坂委員

つまり、発表のような練習をして、そのやり取りを聞いたり、やったりということはやれるけれども、実際そこで使ったことを用いて、別の場面でその使ったことをまた活用しながらやり取りをして、というような習熟にあたる部分でしょうか、そういうところがまだ現場では足りなかったのかなというような分析が出るのではないかと。今年もすごくそこが気になっていて、せっかくこういう ICT が入ってタブレットがありますので、それを使ってネイティブとやり取りする機会とか、それから AI でやり取りを、実際にコンピューターを開いていて、タブレット相手にやり取りをするとか、そういうことは、これから意図すればどんどん作っていけるようになるんですよね。ぜひ、今の齋藤議員さんのご意見を参考にされながら進めていただけるといいかなと思っています。ぜひ私の方からもお願いしたいなと思います。

- 教育長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。
- 中津川委員 今、齋藤委員と石坂委員のおっしゃった内容はごもつものことだと思
って聞いております。今回の英語のテストについては、4年ぶりで新学
習指導要領に基づくものとしては初めてということで、その結果、新潟だ
けではなく、全国的にも少し残念な平均点が出ているわけですけれど
も、その「話すこと」については、新学習指導要領の方でも大変重要な
部分ところということで、今回の試験の意味もあつたのだらうなと思うので
すが、聞いた話ですと、このスピーキングテストというのはタブレット端末
に初のオンライン形式ということで、制限時間内に自分でヘッドセットを
当てて、そこで1分30秒で答えなければいけないということでした。
多分、生徒さんの間でもほぼ初めて経験される方も多かつたのかなと。
その辺、生徒さんたちからはどんな感想が入ってますでしょうか。
- 学校支援課長 一人一人の感想としては分からないこともありますけども、教員側の感
想とすれば、子どもたちがやはりそれに慣れているか、慣れていないか
ってというのが大きな違いが出てくるということと、実際に先生方も含めて、
テストの前に準備、練習等もしてるんですけども、それだけでは日常使
いができていないので、抵抗があつたと思っています。これからそこにも
着目して子供の声も拾っていく必要があるなと思っています。
- 中津川委員 東京都では、高校入試にも取り入れられ、スピーキングテスト自体も
賛否両論、いろいろ課題もあると聞いております。例えば、隣の子が喋
っているのが聞こえてきた、時間差で行った場合に次の人たちに漏れな
いのかとか、正答が多様なところがあるので、その辺も課題だと聞いて
おります。先生方はスピーチについては、たくさん指導をされているか
と思います。私は報告10のページ、「1、2年生の時にスピーチやプレ
ゼンテーションなど、まとめた内容を英語で発表する活動が行われて
いますか」というところ、85.9ポイントと結構高いのですね。その次が「生
徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われてい
たと思いますか」も84.7ポイントで本当に4年前よりかなり上がって
いるので、先生方も話すことができるように、コミュニケーションを取るこ
とができるように、プレゼンや意見を言えることの指導を頑張ってしてい
らっしゃるのかなと思ひこの辺を見ておりました。中学校の英語に関して
は、単語数はこれまでの1.5倍から2倍。文法も高校内容のものが入
ってきていたり、かなり今大変なのかなという感じはしております。先生
方、生徒の皆さんも大変なのかなと思いますが、不可欠な学習ですの
で、未来に向かって頑張って取り組んでほしいなと思ひました。
- 教育長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。
- 畠山委員 報告3の資料なんですけども、小学校の国語において「書くこと」が他
の項目に比べて大変と落ち込んでいる状況なんですけど、この内容を見
ると設問は一つなのかなと見させていただきましたが、この辺はどのよう
に捉えていらつしやいますでしょうか。

- 学校支援課長 これもこれから調査し、分析する内容ですけれども、ICTが入ったからというような短絡的な捉えではなくて、どんな風に時間をその授業の中でとっているのか、もしかすると書く時間というのが少し減ってきているのかなということは考えられます。そこはこれから調査していただきたいと思います。
- 畠山委員 説明で新聞を読むというのが半減しているというのもあったんですけども、この書くということもそうなのですけれども、読み物を読んで、自分で感じるのか考えるのか、色々つながっていると思うんですけども、学校ではNIE教育がありますけど、新聞を読むということについては、市として新聞を読みましようとか、そういう取り組みを学校で呼びかけていることをやっていますでしょうか
- 学校支援課長 今ほどありましたNIEの関係で新聞活用給付の推進校などを出しまして、そこでの実践を広く紹介していくということが取り組んでおります。
- 畠山委員 グラフを見る限り、他に比べて点数が低いです。やはり書くことというのはとても大事なことです。要因を分析して取り組んでいくということが大事かなと思っています。
- 教育長 私からすみません。この新聞を読んでいますか、という質問は”学校で”すか、それとも”ご家庭で”ですか。学校でしかできない教育とか、家庭でしかできない教育があると思うのですが。
- 学校支援課長 両方だと思います。
- 教育長 それであれば、日常生活のなかで新聞を読んでいますかという設問になるんですかね。
- 石坂委員 今の意見に併せて申し上げます。資料の2-2 中学校数学です。問題別集計結果のところも問題形式という項目があって、ここに記述式という欄があります。この記述式の問題が総じてよくなかったのです。今回つまり記述をするということ、数式を書いたり、証明をしたりというようなことが数学の場合、3年生にあたるかと思うんですけども、この辺りの分析を合わせて行っていく必要があるのだろうなと思っています。よろしくお願ひしたいと思っています。
- 教育長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。
- 大宮委員 新聞の部分なんですけど、これはご家庭でということになると、新聞を取ってないご家庭も増えてくると、要は読みたくても読めないという回答が増えてくるのかなと懸念をしまして、これは多分全国的な統計ということなので、そこら辺は可能でしたら購読数が減っている部分とか、若い世代とかだと新聞取ってないご家庭も多くいると思いますので、結局はそういった意味で新聞が家でなければ読めない形になってくるわけです。全国的に自然にこの数字が減ってくるのかと。回答の中の一つですが、ご意見として伝えていただければなと思います。
- 教育長 ほかにございますでしょうか。
私からお願いです。資料1と資料3のあたりの相関の中で、資料1に出

ている正答率は率なので、全員正解すると 100%なんですけれども、普通テストって 60 ポイントに正規分布するのが、子どもたちの実態がよくわかるテストと言われているんですけれども、正答率 8.8%というのはテストに何かしらの問題があるか、全国的に教育がおかしいかのどちらかです。全国的におかしいということはないと思うので、8.8%という数字に惑わされるとなく、必要な対策はなんなのかというところが見えてくるような、いわゆる 1 ポイントで一喜一憂しないように、そういう子もいるし、そうじゃない子もいるということで、そこは全体的な傾向をつかむには有効だと思うんですけれども、個々の主体的な学びが決して疎かにならないように対応していただきたいと思っています。

それから、資料 3 の方は、1%違うと 50 人ですね、その 50 人が問題なのかどうかというのは、数字が下がって上がっただけではなくて、新潟市としてどうしなきゃいけないのかという意識した調査結果が出てくるようお願いをしたいと思います。例えばですけど、「朝食前食べていますか」という設問は 95% 食べていると答えているわけで、今学校ではおそらく全員にパッとお手紙を出して、朝食食べましょうね、くらいはやっていると思いますけど、食べてない子について中心的にアプローチしてないですよ。そうすると 100%にならないので、5% を意識した対応っていうのを練らないと 100%にならないのかと。逆に数値が低い、ほとんどの子ができてないことについては、一斉に対応が必要なのもかもしれません。そういった数値の下がった上がっただけではなくて、どういうことをしたら効果が上がっていくのかっていうところをできるだけ、調査すれば、出てくるかどうかを別にして、わからないところもたくさんあると思います。けれども、個々の細かい数字には注視しないということも大切なんじゃないかなと思います。

他によろしいでしょうか。それでは次の案件に進みたいと思います。

次に、「令和5年度 新潟市教育委員会表彰被表彰者の選考結果報告」については、公表前であることから、非公開としたいと思います、ご異議ありませんでしょうか。よろしければ公開案件の終了後に非公開案件として再開し、審議します。」

(異議なし)

それでは、公開案件の終了後に非公開案件として再開し、審議します。

第4 次回日程

○教育長

続きまして、日程第4「次回日程」について、教育総務課からお願いいたします。

○教育総務課長

次回の定例会につきましては、10月24日(火)午後3時30分を予定しております。よろしくお願いたします。

第5 公開終了

- 教育長 以上で、公開案件を終了いたします。
これより、定例会を非公開といたしますので、傍聴の方についてはご退席をお願いします。

第6 定例会(非公開) 報告

- 教育長 これより、定例会を再開し、報告に入ります。
それでは、「教職員の人事措置」について、学校人事課から説明をお願いいたします。

【以下、非公開】

- 学校人事課長
- 教育長
- 五十嵐委員
- 学校人事課長
- 五十嵐委員
- 学校人事課長
- 五十嵐委員
- 石坂委員
- 学校人事課長
- 石坂委員
- 乙川委員
- 学校人事課長
- 乙川委員
- 畠山委員
- 教育長
- 大宮委員
- 学校人事課長
- 大宮委員
- 学校人事課長
- 教育長

「令和 5 年度新潟市教育委員会表彰被表彰者選考結果報告」について、引き続き学校人事課からお願いします。

【以下、非公開】

- 学校人事課長
- 教育長
- 石坂委員
- 学校人事課長
- 五十嵐委員
- 教育長
- 乙川委員
- 教育長
- 畠山委員
- 教育長

第7 定例会閉会

○教育長 以上で定例会を終了いたします。

以上、会議のてん末を承認し、署名する。

署名委員

富山典子

署名委員

石坂学